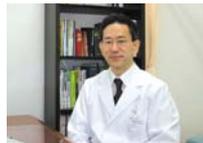


前立腺がんの確定診断のプロセスは「直腸診」「経直腸的超音波検査」そして「前立腺生検」で。

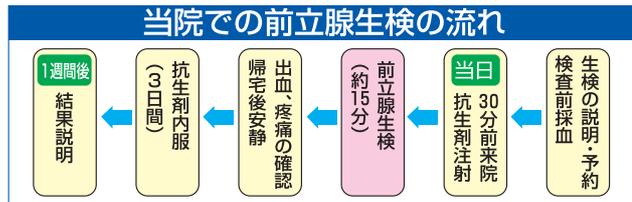
シニア世代必読

前立腺 シリーズNO.2 前立腺がんの診断 前立腺生検による確定診断



日本泌尿器科学会認定・泌尿器科専門医
かねとう腎泌尿器科クリニック 院長 金藤博行先生

前立腺がんは、PSA検査、直腸診、超音波検査によるスクリーニングの後、組織検査(前立腺生検)を行って確定診断をします。近年、前立腺生検の件数が急激に増加し、これに伴って前立腺がん症例が増えており、泌尿器科では重要な検査のひとつになっています。今回は確定診断に至る手順について説明致します。



●前立腺がんの診断手順
①直腸診/前立腺は肛門から3〜4cmの所にありますので、直腸に指を入れて触ることが出来ます。正常の前立腺はクルミ程度の大きさで、ゴのように弾性があり、表面は滑らかです。がんでは硬い結節として触れたり、表面がこつこつしたり、石のように硬く触れることもあります。

②経直腸的超音波検査/超音波断層装置を用いて超音波プローブを肛門から挿入して観察すると前立腺の状態がよく分かります(図1)。前立腺の形、内部の状態を観察し、大きさ(体積)を計測します。プローブは親指程度の大きさです。検査による痛みはほとんどありませんし、特別な準備も必要なく検査自体は5分程度で終わります。

③前立腺生検/前立腺の組織を採って病理診断を行います。組織を採るには直腸から前立腺に針を刺す(経直腸的)方法と(会陰部の皮膚から針を刺す)経会陰的)方法があります。が、経直腸的生検が一般的です。超音波断層装置で前立腺を見ながらプローブに針(生検針)を沿わせて進め、専用の器械で「瞬の内に組織を採ることが出来ます。前立腺全体から6ヶ所組織を採るのが基本ですが、最近ではがん

診断率を上げるために8、10、12ヶ所と生検本数が多くなっています。前立腺は痛みを感じにくいので通常特別な麻酔は必要ありませんが、直腸の軽い痛みや下腹部の圧迫感が出る場合があります。検査による合併症として出血(直腸、前立腺、尿道)やまれに感染症(発熱)がありますので、2、3泊の入院で検査を行っています。当院では特別な合併症がなければ日帰りで検査を行っています。また、他の泌尿器科から依頼を受け当院で日帰り検査を行い、検査結果は担当医に報告することもあります。

前立腺生検の流れは施設によって異なりますが、当院での手順を参考にして下さい。

●前立腺生検を受ける必要のある方。
PSAはがん以外でも高値になることがありますので、PSA 4.1ng/ml以上の方全てに前立腺生検を行う訳で

表1

PSA	4以下	4-10	10以上
生検数	1	55	27
陽性数 (がん発見率)	0	12 (22%)	14 (52%)

(注1) PSA/ピーエスエー 前立腺特異抗原の略称

問い合わせは
かねとう腎泌尿器科クリニック
仙台市青葉区中央1-3-1(アエル10F)
☎022-216-7111
e-mail: info@knuc.jp
URL http://www.knuc.jp
診療/火曜から土曜の午前・午後
休診:日・月・祝日



前立腺生検を受ける際、当院で前立腺ドックを受けることも出来ます(予約制)。

●前立腺がんの診断はPSA、直腸診、超音波検査から
●前立腺がんの確定診断は前立腺生検で
●生検を受けるタイミングは専門医と相談
当院では前立腺検査(PSA検査、超音波検査)を随時行っています(予約制)。また、宮城県成人病予防協会のAER検査チーム(AER 12階)と連携していますので、検診ルームで人間ドックを受ける際に当院で前立腺ドックを受けることも出来ます(予約制)。

次回、前立腺がんの確定診断後、治療方針を決定するまでの過程について説明します。

【まとめ】

①直腸診/前立腺は肛門から3〜4cmの所にありますので、直腸に指を入れて触ることが出来ます。正常の前立腺はクルミ程度の大きさで、ゴのように弾性があり、表面は滑らかです。がんでは硬い結節として触れたり、表面がこつこつしたり、石のように硬く触れることもあります。

②経直腸的超音波検査/超音波断層装置を用いて超音波プローブを肛門から挿入して観察すると前立腺の状態がよく分かります(図1)。前立腺の形、内部の状態を観察し、大きさ(体積)を計測します。プローブは親指程度の大きさです。検査による痛みはほとんどありませんし、特別な準備も必要なく検査自体は5分程度で終わります。

③前立腺生検/前立腺の組織を採って病理診断を行います。組織を採るには直腸から前立腺に針を刺す(経直腸的)方法と(会陰部の皮膚から針を刺す)経会陰的)方法があります。が、経直腸的生検が一般的です。超音波断層装置で前立腺を見ながらプローブに針(生検針)を沿わせて進め、専用の器械で「瞬の内に組織を採ることが出来ます。前立腺全体から6ヶ所組織を採るのが基本ですが、最近ではがん

診断率を上げるために8、10、12ヶ所と生検本数が多くなっています。前立腺は痛みを感じにくいので通常特別な麻酔は必要ありませんが、直腸の軽い痛みや下腹部の圧迫感が出る場合があります。検査による合併症として出血(直腸、前立腺、尿道)やまれに感染症(発熱)がありますので、2、3泊の入院で検査を行っています。当院では特別な合併症がなければ日帰りで検査を行っています。また、他の泌尿器科から依頼を受け当院で日帰り検査を行い、検査結果は担当医に報告することもあります。

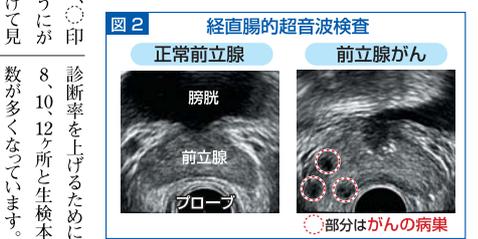
前立腺生検の流れは施設によって異なりますが、当院での手順を参考にして下さい。

●前立腺生検を受ける必要のある方。
PSAはがん以外でも高値になることがありますので、PSA 4.1ng/ml以上の方全てに前立腺生検を行う訳で

前立腺生検を受ける際、当院で前立腺ドックを受けることも出来ます(予約制)。

次回、前立腺がんの確定診断後、治療方針を決定するまでの過程について説明します。

【まとめ】



なく、PSA値、前立腺の形態、年齢、危険因子など様々な因子を総合して生検の必要性を判断します。例えば前立腺肥大症のある高齢の方はPSAがグレイゾーン(4.1〜10.0ng/ml)の場合は直ぐに生検せず、定期的にPSA検査を行って変化を見ることもあります。逆に50歳代で前立腺肥大がない方はグレイゾーンであっても早めに生検を勧めます。いつの時点で検査を受ければよいかは泌尿器科専門医とよく相談して下さい。

●当院の前立腺生検の成績/当院では開院後約2年間に83件の生検を行い、26例(31%)に前立腺がんが発見されました。PSA値との関連では、表1に示すようにグレイゾーンで22%、10.1ng/ml以上では52%にがんが発見されました。PSA 10.0ng/ml以上であった3例は全例がんでした。年齢別では50歳代の19例中3例(16%)、60歳代の33例中10例(30%)が陽

性でしたので、シニア世代でPSA高値を指摘された場合は必ず泌尿器科を受診して下さい。

今回は、前立腺がんの確定診断後、治療方針を決定するまでの過程について説明します。

【まとめ】

前立腺がんの診断はPSA、直腸診、超音波検査から